

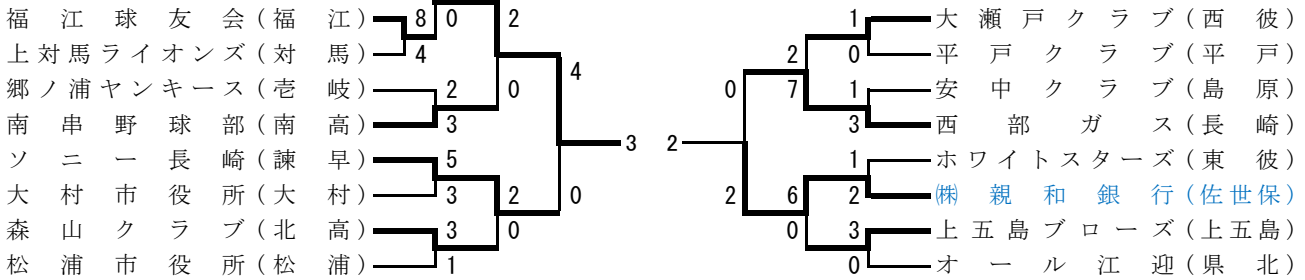
50年の歴史の中で12度目の優勝を2連覇で飾った三菱重工

第50回長崎県軟式野球選手権大会

会期：平成12年10月21日(土)～10月23日(月)

会場：県営ビッグNスタジアム、かきどまり野球場

三菱重工長崎(推薦)



【福江】打安点

④7	後藤	4	2	0
①	鍋内	2	0	0
⑥	田中	2	2	1
⑧	久保	4	0	0
②	才津	4	3	3
③	荒木	2	0	0
9	中尾	2	0	0
⑦	藤原	3	1	1
4	松本	0	0	0
⑨3	池内	3	1	1
⑤	森	3	1	0
		29	10	6

守備の乱れ突いた福江

【一回戦】(ビッグN：第1試合) 振球犠盗失併残

福江球友会	001 052	8	3	2	2	3	1	0	7
上対馬ライオンズ	040 000	4	4	2	1	1	3	0	4

(6回時間切れ) 【二】田中、才津、藤江、庄司

【評】1-4とリードされた福江球友会が五回に2安打と相手守備陣の乱れに乗じて一挙5点を奪って逆転。六回にも田中、才津の適時打で2点を加え勝利を不動のものにした。

上対馬は二回に4点を先取り優位に立ったが、以後は福江の鍋内に抑えられた。遠来の上対馬ライオンズは選手権初出場だったが、白星を挙げる事が出来ずに早々と第1試合で消えた。

【上対馬】打安点

⑦	扇	3	0	0
⑧	糸瀬	3	0	0
⑥2	篠田	3	0	0
②3	高田	3	1	0
①	下岸	2	1	0
⑨	島谷	2	0	0
⑤	藤江	3	2	1
④	辻	2	0	0
③	庄司	2	1	2
6	山崎	0	0	0
		23	5	3

【郷ノ浦】打安点

④	横山	3	0	0
⑥	田中	2	0	0
③	久間	3	0	0
⑤1	後藤	3	1	0
⑧	久山	2	0	0
②	内山	3	0	0
⑨	土谷	3	1	1
①	近藤	1	1	1
H5	久山	1	0	0
⑦	村田	1	0	0
		22	3	2

粘った南串サヨナラ劇

【二回戦】(ビッグN：第2試合) 振球犠盗失併残

郷ノ浦ヤンキース	010 000 1	2	8	5	0	0	1	0	7
南串野球部	000 010 2x	3	0	1	1	2	1	0	7

(7回は無死満塁制) 【二】木戸

【評】1-1のまま六回時間切れ。無死満塁制で決着することになり郷ノ浦ヤンキースは土谷の中前打で後藤に続いて、本塁を狙った久山が中堅手の好返球に刺されて1点にとどまったのに対し、南串野球部は増田順の左前適時打で二者がかえりサヨナラ勝ちした。

平成4年以来、二度目の選手権出場の郷ノ浦は今回も初戦で消えた。

【南串】打安点

⑧	渡部	3	1	1
⑦	井上和	3	0	0
②3	増田里	3	0	0
⑨	木戸	3	2	0
③1	中村	3	1	0
⑥	豊島	2	0	0
⑤	井上辰	2	0	0
①2	増田順	3	2	2
④	宮本	2	0	0
		24	6	3

【福江】打安点

④7	後藤	2	0	0
①4	鍋内	2	0	0
⑥	田中	2	0	0
⑧	久保	2	0	0
②	才津	2	0	0
③	荒木	1	1	0
H	坂井	1	0	0
⑦	藤原	1	0	0
1	勝本	1	0	0
⑨	池内	2	0	0
⑤	森	1	0	0
		17	1	0

重工長崎が攻守に圧倒

【二回戦】(ビッグN：第3試合) 振球犠盗失併残

福江球友会	000 00	0	1	0	0	0	4	0	2
三菱重工長崎	312 1X	7	0	2	2	7	1	0	4

(5回コールド) 【二】中村

【評】立ち上がりいきなり3点を先制した三菱重工長崎が、その後も着実に得点してコールド勝ちした。

福江球友会は三菱の守田から二回に荒木が安打を放ただけで、守田-香田のリレーに完封され重工が地力の差を見つけた試合。

古豪の福江球友会は平成になって2年、7年、前年と四度目の出場だったが、7年と今年に挙げた2勝止まり。

【三菱】打安点

⑤	宮本	3	0	0
⑥	中村	2	2	1
⑦	梶本	2	1	2
⑧	江添	2	0	1
④	石川	3	1	1
⑨	菅	2	2	0
③	永田	1	0	1
②	鈴木	2	0	1
①	守田	2	1	0
1	香田	0	0	0
		19	7	7

森山クラブ反撃許さず

【二回戦】(ビッグN：第5試合) 振球犠盗失併残

松浦市役所	100 000	1	1	2	0	5	0	1	6
森山クラブ	020 10X	3	3	6	1	1	1	0	7

(6回時間切れ) 【三】梶川

【評】1点を追う森山クラブは二回に馬場の右前に落ちる安打などで逆転し、四回には江口の中前打でとどめの1点を加えた。

松浦市役所は盗塁5が示すように足でかき回しにかかったが決定打が出ず、五回無死で三塁打の梶川を還せなかったのも響いた。

【松浦】打安点

④	梶川	3	1	0
⑧	松田	3	2	0
⑥1	荒木	2	0	0
③	田崎	2	0	0
②5	井戸	3	0	0
⑦6	柴山	3	0	0
⑤2	山崎	3	0	0
①7	中野	2	1	0
⑨	池淵	2	0	0
		23	4	0

【森山】打安点

⑤	江口	2	1	1
③	緒方	1	0	0
7	橋村	1	0	0
⑥	藤山	2	0	0
⑦3	中野	2	1	0
②	山本	1	0	0
⑨	馬場	3	2	1
⑧	木村	3	1	1
①	土橋	1	0	0
④	井手	2	0	0
		18	5	3

【ソニー】 打安点

⑤	川下修	3	0	1
⑧	川下友	2	0	0
⑨	平湯	3	1	2
⑥	川原	3	1	0
②	戸嶋村	3	1	0
③	吉村	2	0	0
3	天野	1	0	0
④	川野田	2	1	0
①	森本	2	0	0
1	水崎	0	0	0
⑦	吉崎	3	0	2
		24	4	5

ソニー長崎が逃げきる

【二回戦】(ビッグN：第4試合) 振球犠盗失併残

ソニー長崎	040 001	5	0	2	2	1	1	3	5
大村市役所	010 110	3	6	2	1	1	0	3	3

【二】川原 (6回時間切れ)

【評】二回にソニー長崎が4点を先取したあたりは一方的なゲームかと思われたが、大村市役所も小刻みながら得点を挙げて一時は1点差までに迫った。

大村市役所の善戦ともいえるが、ソニー長崎の守備陣にミスが目立ち、Aクラスのチームとしてはモノ足りなかった。

古豪の大村市役所は平成元年以来は7~9年の3年間を除いて選手権出場。2年の準優勝と4年のベスト4が光っている。



5回裏大村市役所一死満塁、今村の内野ゴロの間に二走の三岳が、本塁に突入するもタッチアウト!

【大村】 打安点

⑥	三岳	3	0	0
⑦	鈴木	3	1	0
⑤	今村	3	0	1
②	古賀	2	0	0
③	針山	2	0	0
⑧	岩永	3	0	1
⑨	嶋浜	2	0	1
①	宮崎	2	1	0
④	森	1	0	0
		21	2	3

1点を守り大瀬戸完封

【二回戦】(かきどまり：第1試合) 振球犠盗失併残

大瀬戸クラブ	000 100 0	1	3	1	0	0	3	0	3
平戸クラブ	000 000 0	0	5	0	0	0	1	0	7

【三】佐々木 【二】阿部

【評】大瀬戸は四回、白浜と川原の連打で一死一二塁とし、敵失の間に1点先取。投げては浦上が制球よく打たせて取り無四球で完封した。平戸は大瀬戸を上回る5安打を放ちながら決定打が出なかった。

【大瀬戸】 打安点

⑥	本木	3	0	0
⑧	白浜	3	1	0
⑦	川原	3	1	0
①	浦上	3	0	0
②	坂本	3	0	0
⑤	村野	2	0	0
③	小橋	1	0	0
3	山添	2	0	0
⑨	吉岡	2	1	0
④	宮崎	2	0	0
		24	3	0

【平戸】 打安点

⑤	田中	4	0	0
⑨	井手	3	2	0
④	白浜	3	0	0
⑧	草谷	3	0	0
②	阿部	3	1	0
①	佐々木	3	1	0
③	出口	3	0	0
⑦	吉岡	2	1	0
⑥	多胡	3	0	0
		27	5	0

安中クの中の山崎、七回に尽きる

【二回戦】(かきどまり：第2試合) 振球犠盗失併残

西部ガス	000 000 3	3	3	4	0	0	0	0	5
安中クラブ	000 010 0	1	2	1	2	0	0	1	2

【二】坂本

【評】西部ガスが集中打で何とか逆転勝ちした。西部ガスは1点を追う七回一死から3連打で同点。二死後に坂本の左越え二塁打で決勝点を挙げた。守っては砂田-松崎の継投で逃げ切った。

安中クラブは西部ガス打線を六回までわずかに1安打に抑えていた山崎貴が力尽きた。安中クの選手権は島原単独となって2年目の昭和58年から9回目。3回目の61年にベスト4が一度ある。そして平成3年の火砕流災害を克服してから4度目の出場。

【西部】 打安点

⑥	坂本	4	2	2
⑧	後藤	4	0	0
⑨	大坊	2	0	0
⑤	峰	1	0	0
⑦	三崎	3	0	0
④	宮崎	3	1	0
②	岩崎	2	1	0
③	里	2	0	0
H9	森	1	1	1
①	砂田	2	0	0
1	松崎	1	0	0
		25	5	3

【安中】 打安点

⑧	本多	3	1	0
⑦	宮崎	2	0	0
②	大場	3	0	0
④	岩本	2	0	0
③	高見	3	0	0
①	山崎	3	1	0
⑤	永川	2	1	0
⑨	山崎	2	1	0
⑥	柿本	2	1	1
		22	5	1

親和銀行、継投で辛勝

【二回戦】(かきどまり：第3試合) 振球犠盗失併残

親和銀行	020 000 0	2	4	1	0	1	1	1	1
ホワイトスターズ	000 000 1	1	5	2	0	0	1	0	3

【評】親和銀行が継投で辛うじて逃げ切った。親和は二回に沖田と北田の連打で一死一三塁とし敵失で2点を先取。守っては山口-江口の継投で1点にしのだ。

ホワイトスターズは東彼杵代表として前年初出場して二度目の県選手権だったが、強豪の親和銀行に対して真っ向から挑み最終回到に植木、宇田と代打が安打。4人目の代打長与が適時打して一矢を報いた。

【親和】 打安点

④	原田	3	1	0
⑦	丸本	3	0	0
②	前川	3	0	0
⑤	添田	3	0	0
③	沖田	2	1	0
⑨	北田	3	1	0
⑥	森山	2	0	0
⑧	中村	2	0	0
7	中	0	0	0
①	山口	1	0	0
H	平野	1	0	0
1	江口	0	0	0
		23	3	0

【ホワイト】 打安点

⑧	福田	2	1	0
⑨	田崎	3	0	0
⑤	土屋	2	0	0
H	植木	1	1	0
③	広田	2	0	0
H	中尾	1	0	0
⑦	山口	2	0	0
H	宇田	1	1	0
⑥	田崎	2	0	0
H	長与	1	1	1
②	中村	3	0	0
①	辻	2	0	0
R	原	0	0	0
1	松本	0	0	0
④	川崎	2	1	0
		24	5	1

【上五島】 打安点

⑨ 近藤	3	1	2
⑤ 森田	3	0	0
⑦ 川上	3	0	0
② 永田	3	0	0
⑧ 田島	3	1	0
③ 神浦	3	1	0
⑥ 片山	3	1	0
① 津田	2	0	0
④ 田下	1	0	1
	24	4	3

散発に抑え 上五島快勝

【二回戦】(かきどまり：第4試合) 振球犠盗失併残

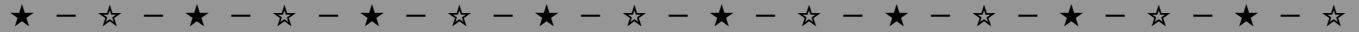
上五島ブローズ	000	030	0	3	3	1	1	0	2	0	2
オール江迎	000	000	0	0	4	0	1	0	0	0	6

【二】田島

【評】上五島は五回一死満塁から田下のスクイズと近藤の2点適時打で3点先制。投げては津田が永田の好リードにも支えられ江迎を散発4安打に完封した。江迎は緩急で打たせて取る津田のうまさにやられたが、オール江迎のチーム名で選手権に初登場したのは平成元年第39回大会で今回が二度目。この10年間に県北代表は生月体協と鹿町バンビーズがそれぞれ4度。

【江迎】 打安点

⑥ 中村	3	1	0
⑦ 青崎	2	0	0
⑤ 山崎学	3	1	0
⑧ 川原	3	0	0
⑨ 松本	3	1	0
③ 北原	3	1	0
① 山崎誠	3	0	0
② 森	3	0	0
④ 松田	3	0	0
	26	4	0



大会第二日は県営ビッグNスタジアムと長崎市営かきどまり野球場で準々決勝4試合と準決勝2試合の計6試合を行った。

連覇を目指す三菱重工長崎は準々決勝の南串野球部戦で小森幸徳、準決勝のソニー長崎戦で森照正の両投手が2試合連続のノーヒットノーランを達成した。

V奪回を狙う親和銀行は準々決勝で江口投手が2安打完封で上五島ブローズに6-0。準決勝は山口投手が西部ガスを4安打完封の2-0で快勝し昨年と同じカードの決勝戦に進んだ。

(平成12年10月23日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

南串の増田、力投報われず

【南串】 打安点

⑤ 渡部	3	0	0
⑦ 井上和	3	0	0
③ 増田里	3	0	0
⑧ 木戸	3	0	0
② 中村	1	0	0
④ 豊島	1	0	0
① 増田順	2	0	0
⑨ 富永	2	0	0
④ 宮木	2	0	0
	20	0	0

【三菱】 打安点

⑤ 宮本	3	1	0
⑥ 中村	3	0	0
⑦ 榎本	3	0	0
⑧ 江添	3	1	0
④ 石川	2	1	1
⑨ 菅	2	1	0
③ 永田	2	0	1
② 鈴木	2	0	0
① 小森	2	0	0
	24	4	2

【準々決勝】(かきどまり：第1試合) 振球犠盗失併残

南串野球部	000	000	0	0	5	1	1	0	2	0	1
三菱重工長崎	020	000	X	2	3	0	0	3	0	0	2

【二】宮本

【評】重工長崎は投打にソツがなかった。小森は右サイドから繰り出す変化球と直球を織り交ぜて三塁を踏ませずノーヒットに抑えた。打線も二回に2点を挙げて快勝した。

南串は小森の巧みな投球術の前に打線が沈黙し増田を援護できなかった。選手権は昭和63年第38回大会が初出場。2勝して準決勝で親和銀行に敗戦のベスト4がデビュー。3年連続後、10年ぶり4回目の出場で4勝4敗の五分。

ソニー、継投で森山クを零封

【準々決勝】(かきどまり：第2試合) 振球犠盗失併残

森山クラブ	000	000	0	0	3	1	0	0	0	0	4
ソニー長崎	000	200	X	2	2	2	0	1	1	0	2

【評】ソニー長崎が二人の継投で森山クラブを零封した。ソニーの長身右腕・森は角度のある直球を武器に五回を散発3安打無失点。打線も四回に戸嶋の2点適時打で勝ち越した。

森山クラブは選手権に3年連続4回目の出場で、昨年は準々決勝で中野がソニーを無安打無得点に抑えて初のベスト4。この試合も土橋がソニー打線を2安打に抑えるも打線の援護に恵まれず2年連続ベスト4は消えた。

【森山】 打安点

⑤ 江口	3	0	0
⑧ 木村	3	1	0
⑥ 藤山	3	0	0
③ 中野	3	0	0
② 山本	3	0	0
⑨ 岸川	1	0	0
H 橋村	1	1	0
⑦ 馬場	3	1	0
① 土橋	2	1	0
④ 井手	2	0	0
	24	4	0

【ソニー】 打安点

⑨ 平湯	3	0	0
⑧ 川下友	2	0	0
③ 天野	2	0	0
⑥ 川原	3	1	0
② 戸嶋	2	1	2
⑤ 川下修	2	0	0
④ 川田	2	0	0
① 森	1	0	0
H 西川	1	0	0
1 水本	0	0	0
⑦ 吉崎	2	0	0
	20	2	2

大瀬戸、4回痛い5失点

【大瀬戸】 打安点

⑤ 村野	3	1	0
④ 細川	1	0	1
⑦ 川原	2	0	0
③ 浦上	3	0	0
② 坂本	3	0	0
⑨ 大石	2	0	0
H9 堀山	1	1	0
⑥ 鶴山	3	0	0
⑧ 吉岡	3	2	0
① 宮鳥	1	0	0
H 山添嘉	1	0	0
	23	4	1

【準々決勝】(ビッグN：第1試合) 振球犠盗失併残

大瀬戸クラブ	002	000	0	2	4	1	3	1	5	0	5
西部ガス	101	500	X	7	1	2	0	4	3	0	8

【二】宮本

【評】2-2で迎えた四回の西部ガスは下位打線が作った二死満塁から2番の後藤以下が4連続長短打してビッグな5点を挙げ勝利を不動のものとした。

大瀬戸クラブも三回に2点スクイズが成功する形になって序盤の試合展開は互角だったが、失点はエラー絡みであり点差が開いた。

西彼杵代表の大瀬戸クは昭和58年第33回大会が選手権初参加で、前年までの17年間に8回出場。今季の1勝を加えて3勝目。

【西部】 打安点

③6 坂本	3	1	0
⑧ 後藤	4	1	2
⑥3 宮本	4	1	1
3 里	0	0	1
⑤ 峰	4	1	1
⑦ 大坊	2	1	0
H79 畠中	2	2	0
⑨ 森	3	0	0
H7 三崎	1	0	0
④ 宮崎	3	2	0
4 小川	0	0	0
② 岩崎	3	1	0
① 砂田	1	0	0
H1 松崎	1	0	0
	31	10	5

親銀の江口好投、上五島に快勝

【上五島】 打安点

⑨29	藤	2	1	0
①95	森	2	0	0
⑦	川	3	0	0
②12	永	2	0	0
H	田	1	0	0
⑧	外	2	0	0
H	島	1	0	0
③	神	2	0	0
⑥	片	2	0	0
⑤	田	2	0	0
1	津	0	0	0
④	荒	2	1	0
		21	2	0

【準々決勝】(ビッグN：第2試合) 振球犠盗失併残

上五島ブローズ	000 000 0	0	7	1	1	0	2	0	2
親和銀行	301 002 X	6	2	2	0	2	0	0	6

【三】中田、北田
【二】前川

【評】親和銀行が快勝した。攻めては初回一死走者一二塁を中田が一掃する中越え三塁打。暴投で還って3点を先取して早々と試合の主導権を握った。投げては江口が横の揺さぶりで上五島打線を2安打に抑え完封した。

上五島軟式野球連盟が創設されたのは昭和49年。その年から単独で選手権大会に参加しておりブローズは6年目の54年に初登場して18年間で今回が7度目。奈良尾クラブや舛田グループなどを差し置いての出場。

【親和】 打安点

④	原	田	4	0	0
⑤	平	野	4	1	0
③	前	川	4	1	0
⑦	中	田	3	2	2
⑧	北	山	3	1	0
⑥	森	山	2	1	0
⑨	山	口	3	1	0
②	田	口	2	0	0
①	江	口	3	2	1
			28	9	3

【ソニー】 打安点

⑨	平	湯	2	0	0
⑧	川	下	3	0	0
③5	天	野	3	0	0
⑥	川	原	3	0	0
②	戸	嶋	3	0	0
⑤4	川	下	2	0	0
④	川	修	1	0	0
3	中	尾	1	0	0
①	本	田	2	0	0
⑦	吉	崎	2	0	0
			22	0	0

ソニー長崎、打線が沈黙 森がノーヒットノーラン

【準決勝】(かきどまり：第3試合) 振球犠盗失併残

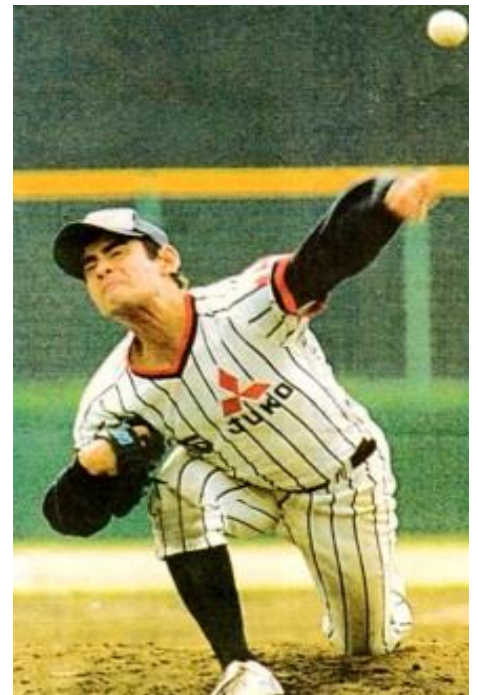
ソニー長崎	000 000 0	0	4	1	0	0	3	0	2
三菱重工長崎	003 001 X	4	3	0	2	3	1	0	4

【二】石川

【評】三菱重工長崎の森が1四球のノーヒット・ノーランを達成した。森は威力のある速球と縦に割れるカーブを武器にソニー打線を全く寄せ付けなかった。

打線も三回に敵失を足場に好機を広げ、榎本の三遊間を破る適時打などで3点先制。六回にも右中間二塁打で一死三塁に永田の内野ゴロで追加した。

ソニーは打線が沈黙。守備も3失策と乱れてことごとく失点に結びついた。ソニー長崎が県選手権に初登場したのは平成元年の第39回大会でまだC級の頃。3年の高松宮杯2部で準優勝、翌4年西日本1部で優勝して5年にAクラス。二度目の県選手権が4年で初白星をあげ、4年連続出場した7年の第45回大会で悲願の優勝。今季まで9年連続10回目の出場。優勝後に3年連続で準優勝し、選手権で挙げた白星は19個。



速球とカーブを武器に、ノーヒットノーランを達成した三菱重工長崎の森投手

【三菱】 打安点

⑤	宮	本	3	0	0
⑥	中	村	3	0	0
⑦	榎	本	3	1	1
⑧	江	添	3	0	1
④	石	川	3	1	0
⑨	菅		3	3	0
③	永	田	2	0	1
②	鈴	木	3	0	0
①	森		2	0	0
			25	5	3

西部ガス、あと一歩及ばず

【西部】 打安点

⑥	坂	本	3	1	0
⑧	後	藤	3	1	0
③	宮	本	2	0	0
⑤	峰		3	0	0
⑨	大	坊	2	0	0
①	松	崎	3	0	0
④	宮	崎	2	0	0
⑦	三	崎	2	0	0
②	岩	崎	2	0	0
			22	2	0

【準決勝】(ビッグN：第3試合) 振球犠盗失併残

西部ガス	000 000 0	0	8	2	0	1	1	0	3
親和銀行	002 000 X	2	3	2	1	0	1	1	3

【評】序盤の一二回と好機を逸した親和銀行は三回二死一二塁から前川の右前に落ちる安打で2点を挙げた。親銀のエース山口はこれで十分。伸びのある速球で西部ガス打線を押し込み、ピンチらしいピンチは六回二死後、三塁に走者を置いた時だけ。これも後続を断った。

西部ガスの松崎もよく投げたが三回に自らのエラーでピンチを招いたのが命取りになった。西部ガス長崎は第2回県下選手権にも出ているが、軟式に戻った16回大会以降は平成2年第40回大会。そして10年に出場も黒星続きだったが、今回2勝を挙げた。

何よりも平成6年の西日本1部大会(和歌山県)での準優勝が光っており翌7年からはA級登録している。

【親和】 打安点

④	原	田	3	1	0
⑥	森	山	2	0	0
②	前	川	3	1	2
③	沖	田	1	0	2
⑦	中	田	3	0	0
⑨	北	田	2	1	0
⑧	中	村	2	0	0
①	山	口	2	0	0
⑤	平	野	2	1	1
			20	4	2

重工長崎が連覇 親和銀行にサヨナラ

【決勝戦】10/23 ビッグN 振球犠盗失併残 2時間50分

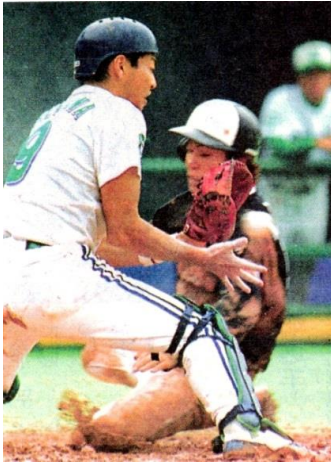
親和銀行	010 100 000	2	4	0	3	0	2	0	2	【三】添田
三菱重工長崎	000 020 001x	3	3	0	4	2	0	0	7	【二】添田

【評】三菱重工長崎が土壇場の九回サヨナラ勝ちした。

先制したのは親和銀行。2回と4回に中田と添田の適時打で試合を優位に進めた。三菱重工は四回まで親銀の山口の前にわずか2安打と沈黙したが、5回敵失に付け込んで二死二三塁とし守田の適時打などで同点とした。三菱の守田は7安打を浴びながらもフォークを武器に要所を締めて6回以降は2安打に抑えていた。

親和のエース山口も伸びのある速球と切れのある変化球を両コーナーに散らして、6回以降を抑えて9回を迎えた。

九回裏の重工は菅が内野安打で出て永田のバントと三盗の一死三塁に、鈴木のはたまりは遊ゴロ。菅が本塁に突っ込んでサヨナラゲームとなった(左写真)。



☆…三菱重工長崎と親和銀行が決勝戦で戦うのは7度目で、最初は昭和43年の第18回大会。重工が6連覇達成した2年目のとき。次が8年後の51年第26回大会で親和が雪辱しこれが初優勝。続いて9年後の60年第35回大会から62年まで親和が3連覇したが重工も3連続準優勝して、ここまで親和の4勝1敗。平成元年から親和が6連覇達成したが重工との決勝戦対決は無く、平成7年に8年ぶりに決勝進出した重工の相手はソニー長崎。ソニーが4年間決勝進出したために、重工-親和の決勝対決が実現したのは11年間の空白をおいた前年の第49回大会で6度目の決勝対決は重工が制し今年も連勝。通算で親和の4勝3敗。優勝回数はこちらも6連覇の偉業があり、親和の14回に重工が12回。

表彰選手	最高殊勲選手賞	守田 和博 (三菱重工)
	最優秀投手賞	森 照正 (三菱重工)
	優秀選手賞	鈴木 亮一 (三菱重工)
	打撃賞	菅 賢一 (三菱重工)
	敢闘賞	山口 淳一 (親和銀行)

【親和】	打安点	【三菱】	打安点
④原 田	4 1 0	⑤宮 本	4 2 0
⑧丸 本	4 1 0	⑥中 村	4 0 0
②前 川	3 0 0	⑦梶 本	4 0 0
⑤添 田	4 3 1	⑧江 添	4 3 0
③沖 田	2 0 0	④石 川	2 1 0
⑦中 田	3 0 0	⑨菅	4 2 0
⑨北 田	3 2 1	③永 田	2 0 0
⑥森 山	2 0 0	②鈴 木	4 0 1
①山 口	3 0 0	①守 田	3 1 1
	28 7 2		31 9 2

◆三菱重工長崎・布村正樹監督
他チームを上回ったのが投手力。守田や小森ら4人の投手が最小失点に抑えてくれた。打線もバントや叩きつける打撃を確実にこなしたのが勝因。



平成12年に開催されたその他の競技会の戦績① (一般のみ)

第55回国体一般B予選 6.18～長崎

千住スポーツ店ク(諫 早)	0
大村市役所(大村)	0 3
三菱重工長崎(長崎)	1 9
郷ノ浦ヤンキース(老 岐)	4 0
吾妻町体協野球部(南 高)	1 4
舩田グループ(上五島)	6 0
豊玉町野球部(対馬)	3 1 8
ケンズガレージ(佐世保)	5 0
轟クラブ(北高)	1 0
三井楽クラブ(福江)	2 3
島クラブ(平戸)	棄 0
西海棒球队(西彼)	1 0
九州電力長崎支店(長崎)	0 8
ソニー長崎(諫 早)	2 8
彼杵スラッガーズ(東 彼)	1 4
巖原レパーズ(対馬)	棄 0
アスレックス(県北)	1 4
御厨ベイスターズ(松浦)	4 0
安中クラブ(島原)	棄 0
アケン医院マッスルズ(佐世保)	棄 0

第55回国体成年県予選 5.13～佐世保

豊玉壮年クラブ(対馬)	8
松浦壮年クラブ(松浦)	1 9
大瀬戸壮年野球部(西 彼)	5 9
コーカスクラブ(長崎)	7 7
波佐見名球会(東 彼)	11 3
メンフッズ福江(福江)	7 5
飯盛壮年クラブ(北高)	6 10
大村市役所(大村)	2 3
佐世保西海クラブ(佐世保)	3 1 3
上五島迷球会(上五島)	3 3

第55回国体九州予選 8.25～大分県

(一般A)親和銀行=推薦
【一】○大分 【代】●宮崎
(一般B)三菱重工長崎
【一】
(成年)メンフッズ福江
【一】

天皇賜杯第55回県予選 7.1～諫早

長崎市役所(長崎)	0
親和銀行(佐世保)	7 7 11
千々石町野球ク(南 高)	0 0
峰ファイターズ(対馬)	2 0
福江球友会(福江)	11 11
東海クラブ(老 岐)	0 2
トンネルズ(島原)	0 5 2
たちばな信用金庫(諫 早)	5 0
波佐見鴻ノ巣ク(東 彼)	2 0
鹿町バンビーズ(県北)	1 0
ソニー長崎(諫 早)	6 3
上対馬クラブ(対馬)	0 0 3
西海棒球队(西 彼)	7 2 3
TEAM橋口(大村)	7 2
平戸クラブ(平戸)	4 0
舩田グループ(上五島)	2 2
轟クラブ(北高)	3 5 0
佐世保市水道局(佐世保)	8 5
三菱重工長崎(長崎)	3 5
松浦市役所(松浦)	2 2

天皇賜杯全日本 9.15～北海道

三菱重工長崎

【二】1-0 松下電工(株)津工場(三重)

【準々】0-1 テルウェル九州(熊本)

【三】2-0 セントラル硝子(株)宇部工場(山口)=14回

平成12年に開催されたその他の競技会の戦績② (一般のみ)

第22回西日本1部県予選 4.1～:飯盛

TEAM 橋口(大村)	4
島原市役所(島原)	1 2
浜屋百貨店(長崎)	2 3
吾妻町体協野球部(南高)	1 0
けんみん信用組合(佐世保)	4 1
若松クラブ(上五島)	0 5
◆棄権◆ (宍岐)	0
西海棒球隊(西彼)	0 2
彼杵スラッガーズ(東彼)	0 2
小長井クラブ(北高)	8 0
生月体協(県北)	1 5
たちばな信用金庫(諫早)	2 2
天星会(松浦)	5 1
平戸クラブ(平戸)	2 6
美津島マーシャルズ(対馬)	9 1
三井楽クラブ(福江)	8

第22回西日本2部県予選 4.8～:島原

郷ノ浦ヤンキース(宍岐)	2
新星クラブ(島原)	0 1
小川仏具クラブ(諫早)	1 2
ホワイトスターズ(東彼)	8 1
増山建設野球部(福江)	11 4
西龍クラブ(平戸)	1 0
n D o (西彼)	0 7
巖原ファイターズ(対馬)	1 1
大村ベ이스ターズ(大村)	4 5
森山クラブ(北高)	5 0
支払基金(長崎)	1 1
国見クラブ(南高)	0 2
アスレチックス(県北)	3 1
西部ガス(佐世保)	2 3
ファイヤーバード(上五島)	1 2
松浦クラブ(松浦)	0

第23回九州選手権予選 4.15～佐世保

親和銀行と西部ガス長崎が優勝

第4回西日本選手権予選 10.1～佐世保

轟クラブ(北高)が優勝

西日本選手権大会 11.2～:和歌山県

【一】 1-8 住友金属和歌山

第22回西日本大会1部 5.19～:兵庫県

- 【一】 10-4 牟岐大洋クラブ(徳島)
- 【二】 3-0 新撰組(兵庫)
- 【準々】 7-4 ボンバーズ(京都)
- 【準】 3-9 去佳想(滋賀)

第22回西日本大会2部 5.26～:島根県

- 【一】 10-2 五日市ヤンキース(広島)

高松宮賜杯第44回1部 5/28,6/10:北松

生月体協(県北)	1
ケンズガレージ(佐世保)	3 2
松石電設(諫早)	5 3
島クラブ(平戸)	1
巖原レパーズ(対馬)	2
飯盛クラブ(北高)	6 3
上五島ブローズ(上五島)	2 4
吾妻町体協野球部(南高)	3
彼杵スラッガーズ(東彼)	3
松浦市役所(松浦)	2
島原市役所(島原)	棄
大瀬戸クラブ(西彼)	棄
福江市役所(福江)	0
九電長崎支店(長崎)	3 5
大村市役所(大村)	0

九州ブロック(福岡)で敗退

高松宮賜杯第44回2部 5.27～:波佐見

A T M B(諫早)	4
長崎東芝セラミックス(東彼)	0 5
長崎市水道局(長崎)	5 1
吉井クラブ(県北)	6 4
安中クラブ(島原)	7 5
トンネルズ(上五島)	0 4
美津島ポパイ(対馬)	0 2
森山クラブ(北高)	5 13
PARADOX(大村)	6 2
ハウステンボス(佐世保)	4 4
シーバード(松浦)	3 5
大島ファイターズ(西彼)	4 0
福江ドリームスターズ(福江)	4 6
有明クラブ(南高)	6 3
東海クラブ(宍岐)	7 2
おじんクラブ(平戸)	0

九州ブロック(大分)で敗退

第52回県民体育大会 11.11～:諫早

(宍岐)箱崎クラブ	1
(松浦)御厨ベ이스ターズ	2 1
(佐世保)アイクン医院マッスルズ	1 3
(北高来)轟クラブ	0 9
(西彼杵)大瀬戸クラブ	1 0
(東彼杵)彼杵スラッガーズ	5 1
(長崎)九電長崎支店	3 0
(五島)有川町	2 2
(福江)福江市役所	0 1
(諫早)ソニー長崎	4 2
(南高来)南串野球部	1 0
(対馬)巖原レパーズ	0 1
(平戸)島クラブ	2 3
(大村)TEAM橋口	7 2
(北松浦)生月体協	8 3
(島原)安中クラブ	0

第8回県壮年大会 10.14～:松浦

北松壮年(県北)	1
松浦壮年クラブ(松浦)	9 5
おじんクラブ(平戸)	2 0
長崎市役所(長崎)	8 3
佐世保西海クラブ(佐世保)	10
波佐見名球会(東彼)	3
美津島ニューヘアーズ(対馬)	4
メンフッズ福江(福江)	4
大瀬戸壮年野球部(西彼)	1